

暴力団員の市営住宅等の使用制限に向け
市と対馬南・北警察署が協定締結



協定書に署名する
対馬南警察署長

対馬市と対馬南及び北警察署は4月25日、緊密に連携して暴力団員による市営住宅等の使用制限に関する協定を締結しました。対馬市は暴力団員の市営住宅等の入居を制限できるとした市営住宅管理条例の改正案を3月の議会定例会で決。協定では、市から照会があった場合、警察署からの情報提供、必要な支援などが定められています。現在、市営住宅は869戸あります。

新しい対馬市消防団長
宮崎義則さんです。



永留市喜前消防団長の退任に伴い、消防団役員会で満場一致の推薦を受け4月1日付

けで対馬市の新しい消防団長に就任した宮崎義則（51）さんです。

美津島町出身の宮崎さんは、地元の消防団員から分団長、指導員、副団長を経て、平成16年からは同地区の筆頭副団長として活躍されてきました。今後は対馬市消防団員1850名の先導役として、対馬市民が安全で安心して生活できる郷土づくりに励みたい」と抱負を述べました。

新しい人権擁護委員の

武末憲幸さんです
上対馬町豊

0920(86)2709



前任者の退任を受けて、4月1日付けで武末憲幸さんが新しく人権擁護委員に就任しました。子どもの人権問題、女性の悩みごと等、お気軽にご相談下さい。

また、峰町三根の
阿比留 義教さん

0920(83)0035

が同日付で再任されました。両名とも任期は平成20年4月1日から3年間です。人権擁護委員は、国民の基本的人権の侵犯監視、救済などの処置、人権思想の普及・高揚などを指命とし法務大臣より委嘱されます。

現在、市内には12名の人権擁護委員が活躍しています。

新規採用職員紹介

本年度、対馬市の職員として保健師1名、消防士4名が採用されましたので、紹介します。

保健部 南福祉保健センター
保健師



なかむらみさと
中村美里
(25歳)

抱趣出 美津島町
負味身 剣道・温泉
市民の皆様信頼される保健師になれるよう、頑張りたくたいです。

消防本部

消防士



やなぎだあきひろ
柳田彬博
(24歳)

抱趣出 厳原町
負味身 剣道
己を鍛え、郷土愛の精神をもって日々精進したい。



はらだようぞう
原田洋三
(22歳)

抱趣出 豊玉町
負味身 剣道
知識・技術・体力を備えた信頼される消防士になりたい。



おうぎしょうき
扇祥喜
(20歳)

抱趣出 豊玉町
負味身 陸上
厳しい訓練を乗り越えて立派な消防士になれるよう努力したい。



へいましゅん
平間瞬
(19歳)

抱趣出 上対馬町
負味身 スポーツ全般
少しでも早く市民に信頼され、応えられる消防士になりたい。

春の全国交通安全運動



交通安全パレード(厳原町)



キャンペーン風景(美津島町根緒)

「点めつだ 一度止まって 次の青」をスローガンに4月6日から15日まで、春の全国交通安全運動が実施され、市内の各地区で啓発活動が実施されました。

美津島町では4月7日、鶏知の住吉神社で交通事故の防止と交通安全を願って、交通安全協会役員や、母の会のメンバーらによる交通安全祈願祭が行われ、11日の安全キャンペーン(美津島町根緒)では、啓発物資の配布などを通してドライバーに安全運転を呼びかけました。

また、厳原町でも4月7日に祈願祭と交通安全パレードが実施され、12日には対馬税務署前の国道で安全キャンペーンが実施されました。

最近、対馬でも自動車による交通死亡事故が発生しています。安全運転を心がけ、事故のない対馬市を目指しましょう。

最新鋭の30m型巡視艇

「やえぐも」「なつぐも」「あきぐも」が就役 対馬海上保安部・比田勝海上保安署



配備された3隻の巡視艇 左から「あきぐも」「なつぐも」「やえぐも」

対馬海上保安部に配備された巡視艇「やえぐも」「なつぐも」と、比田勝海上保安署に配備された巡視艇「あきぐも」の就役記念式典が4月14日、厳原港岸壁で行われました。

巡視艇は、老朽化のため今年2月に解役した初代30m級巡視艇の代替として配備されたもので、3隻とも同型で総トン数が約100トン、長さ32m、幅6.5mで、ウォータージェット推進により36ノット以上(時速約67km)での航行が可能となっています。船には目標追尾型遠隔操縦機能付13ミリ機銃、赤外線搜索監視装置、

停船命令表示装置などの最新鋭の設備が装備されており、旧巡視艇と比べ速力、操縦性能、夜間監視能力などが一段と向上しています。関係者約60人が参加した式典の中で檜垣幸策対馬海上保安部長は「巡視艇の性能が向上したことは非常に心強いものがあり、今後も全職員が一丸となって業務に邁進し、皆様方の付託に応えるよう誠心誠意、努力してまいります」と式辞を述べました。

峰警察官駐在所が開所 老朽化により建替

峰町三根に新築された峰警察官駐在所が4月4日に開所しました。

以前の駐在所は、昭和59年に建設され24年間にわたり峰地区の警察活動の拠点としての機能を果たして来ましたが、老朽化が進んでいました。

新駐在所は、体の不自由な方でも気軽に利用できるようバリアフリーに配慮した設計となっており、駐車場も広がったほか、室内には相談室が設けられ、住民が訪問しやすいよう工夫されています。3月27日付けで着任した篠原巡査部長が勤務します。



開所式にて：前列中央が篠原巡査部長

韓国の伝統料理キムチ作りに挑戦

対馬高校国際文化交流コースの生徒



キムチ作りを指導する
李先生とお母さん



対馬高校で韓国の言葉や文化を専門的に学ぶ国際文化交流コースの生徒27名が4月18日、校内の調理実習室でキムチ作りに挑戦しました。

入学したばかりの新1年生と2、3年生の親睦と韓国食文化への理解を深めてもらうことを目的に実施されたものです。

キムチ作りに先立ち、3年生から「入学おめでとう」と歓迎の言葉を贈られた1年生は、1人づつ自己紹介し「高校では勉強と部活を頑張りたい」など抱負を語りました。その後、班に分かれて料理開始。4月から同校の3代目の

韓国語講師に赴任した李東熙

さん(28)とそのお母さんの

崔珧澤さん(56)から指導を

受け、キムチの具となるダイコンや梨、細ネギなどを包丁

で切り、用意されていた唐辛子の粉、エクチヨツ(液体塩

辛)と、干しいわし、昆布、椎茸で作っただし汁等を混ぜ

てタレを作り、白菜にはさんでキムチを作りました。

唐辛子で手を真っ赤に染めながら、上級生と下級生がお互いに協力し楽しそうに料理

に励んでいました。できあがったキムチは小分けされ生徒

たちが自宅へ持ち帰りました。

若手消防署員が救助技術を競う 第14回 消防技術指導大会



15mを登る「はしご登はん」



「ほふく救出」

4月24日、対馬市消防本部屋外訓練場で第14回消防救助技術指導大会が開かれ、対馬市の若手消防職員が救助技術を競いました。

大会には、垂直のはしご15

mを登りスピードと安全確実性を競う「はしご登はん」の

部に6名、空気呼吸器を装着して幅と高さが90cm、長さ8

mの通路の先の被災者を2人1組で救助する「ほふく救出」の部に7組14名が出場

緊張感漂う雰囲気の中、出場者たちは日頃の練習の成果を

発揮しようと気合いを込めて競技に励んでいました。

両種目の優勝者は、5月23

日に大村市の長崎県消防学校で開催される県大会に、対馬

市消防本部代表として出場します。

【成績】(敬称略)

はしご登はん 阿比留史博(豊玉出張所) 15秒3(10

9点) 小茂田幸人(上県出張所) 15秒5(109点)

ほふく救出 大江泰宏・辻康博(本署) 45秒5(120

点) 永留和秀・稲葉克明(美津島出張所) 42秒6(1

18点) 武末淳・小茂田幸人(上県出張所) 49秒0(16点)

美津島地区 消防団正・副分団長会議



救命実技講習の様子

4月6日、美津島文化会館で対馬市消防団美津島地区正・副分団長会議が開催されました。

会議に先立ち、駐車場では礼式訓練や、AED(自動体外式除細動器)を使った救命実技講習等が実施され、参加者は真剣な表情で取り組んでいました。

その後、新たに就任した分団長への辞令交付が行われ、会議では平成19年度の事業報告や20年度の事業計画案などが審議されました。

水谷 修^{あきひさ}夜回り先生(教育講演会)

『いま、子どもたちは… 私たちにできること、しなければならぬこと』

「夜回り先生」として深夜の繁華街に集う少年少女の更正



講演する「夜回り先生」こと水谷修さん

「夜回り先生」として深夜の繁華街に集う少年少女の更正

「夜回り先生」として深夜の繁華街に集う少年少女の更正

「夜回り先生」として深夜の繁華街に集う少年少女の更正

点数とって「などと追いつめるような言葉によって家庭が子どもにとって憩いの場でなくなっている」と指摘。「子どもは受けた優しさや愛、語られた夢や希望が多ければ多いほど非行や犯罪、心の病から遠ざかる。子どもがほめてもらえる家庭づくり、学校づくりをしましょう」と呼びかけました。

また、不登校や引きこもりの子どもたちはインターネットや携帯電話などを使って見えない相手」に救いを求めている。子どもたちを守るために、これらの情報機器の使用を制限しよう」と訴えました。



平成20年6月1日から6月7日までの1週間にわたり、第50回水道週間が実施されます。

この水道週間は、水道について更に国民の理解と関心を高め、水道事業のさらなる発展に資することを目的として毎年実施されています。

シリーズ「人権教育総合推進地域事業」の取組 その

対馬市教育委員会

人権コラム

ドノハナミテモ

クレイダナ

春になりました。校庭の花壇には色とりどりの花が咲き乱れています。教室からは、明るく伸びやかな子どもたちの歌声が聞こえてきます。

さいた さいた
チューリップの花が
ならんだ ならんだ
赤白 黄色
どの花見ても きれいだな

顔じゅうを口にして、一生懸命歌っている子どもたちの姿が、目に浮かんできます。赤、白、黄色と彩りは異なっている、精一杯その「いのち」を生きているチューリップの花のように、どの子の顔も生き生きと光り輝いています。

まさに、「どの花見てもきれいだな」です。

また、赤のチューリップには赤の、黄色には黄色の美しさがあるはずですね。どちらの美しさが優れているということはないはず。ならば、ならんだ「きれいだな」であるはずなのです。

大切なことは、私たちがどの花見てもきれいだな」という思いを抱けるかどうかだと思います。

「大きくなったね」「きれいに咲いたね」「元気になってうれしいよ」

「育てる人の、そんな思いが草花にも伝わっていくのでしょ。うね。それは子どもたちも同じことです。いつも見つめてくれる人、成長を喜んでくれる人、自分を認めてくれる人、そんな人たちとの出会いによって、子どもたちはより豊かに「いのち」の輝きを放つようになるのでしょうか。

「比べる」のではなく、それぞれの「いのち」の輝きを確かに受けとめながら、子どもたちと歩み続けることが大切なのではないか。

お父さん お母さん
大切にしたいですね
ドノハナミテモ クレイダナ
【県PTA新聞「ラムいびぎ」】
平成6年4月10日発行